

---

# SHIN - MEN 短編集

ぽっきい

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

S H I N - M E N      短編集

### 【Nコード】

N 9 2 4 0 Z

### 【作者名】

ぼっき

### 【あらすじ】

いつものんびりの5人組S H I N - M E Nのお気楽短編集。  
お気楽にどうぞっ！

## ヒューの弱点（前書き）

いつもかつこいいヒューが！？  
ゴウ「なにになに？どうなるの？？」  
それは見てのお楽しみ！

## ヒューの弱点

ゴウ「今日の夜シンメンハウスでだいかん大会をするゾー！」

ゴウ以外「」  
「」  
「」  
「？」  
「？」  
「？」  
「」  
「」  
「」

スイ「もしかして……怪談大会って言いたいスイ？」

ゴウ「そうともいう？」

いや……そうとしか言わないのだが……

「ニヨキ、おもしろそうだYO!」

カン「たしかに自分もそうなのは好きだぜ！」

力、カンまで乗り気になっている!? (汗)

ゴウ「じゃあ、今夜つてことで！」

い、嫌ダアアアアア！！！！！！！！！！

その夜

ゴウ「では、かんだい大会を始めるゾ！」

3人「『怪談だつ』の!!!」

あア……始まってしまった。  
わたしは皆に隠していたけれど実は怪

談話が苦手なのだ！

カン「順番はどうするんだぜ？」

「ヨキ、言いだしっぺのゴウから時計回りでよくNE?」

ヒュー「じ、じゃあゴウ、ニヨキ、スイ、カン、わたしの順になる

の力

スイ「じゃあまずゴウちゃんドーズ！」

ゴウ「ほっほっほい！  
いっくぞー！！！」

ひييイ！！  
嫌ダ嫌ダ嫌ダアアアア！！！！！！！！！！

〔数時間後〕

カン「よしっ自分の怪談はこれで終わりだぜ！」

ニヨキ「あんまり怖くなかったNA、次はヒューさんの番だYO！」

ヒュー「…」

スイ「どうしたんだスイ？ヒューちゃん？」

ゴウ「お？」

ヒュー「ウウウツウウウウウウ（涙）」

4人（（泣いてるっ！？）（））

カン「どうしたんだヒュー！？」

どうしよウ…カンに心配されてル…でも怖いッッ！！！！

ヒュー「ウウ、皆…わたしは、わたしは…」

ゴウ「あ、ヒューさんの後ろに…」 冗談

ヒュー「ひいひいひいひい！！！！いやだアアアアアアアア

！！！！（号泣）」

カン「…もしかしてヒューは怪談が苦手だったんじゃないあ…」

3人「…あ、やっぱり？」「…」

カン「気づいてたんかいっ！！！？？」

ゴウ「まあ、はなしている間ヒューさんずっと涙目だったしね…」

約1ヶ月間ヒューが暗いところにいられなかったのはまた別の話…

## ヒューの弱点（後書き）

まさかヒューの弱点が怪談話とは…  
次はカン！！

## カンのプライド（前書き）

今回の主役は皆のアイドルカンちゃん！！！！  
カン「誰がアイドルだっ！？」  
ヒュー「／／／／」（ドキドキ）  
それでは始まりい！！！！

## カンのプライド

ゴウ「…カンって身長どれくらい？」

カン「はあ？ な、何の事だかさっぱりだぜ？」

ニョキ「確かにカンって身長低そうだな」

スイ「僕よりも小さそうなイメージあるでスイ」

ガン「…まさかスイにまで言われるとはっ！！」

カン「…じつ自分は…ううう（涙目）」

3人（（うっ！？からかいすぎた？）（））

確かに…スーツを着ているから自分は大きく見えるけれど…  
実際自分はスイよりも少し小さいのかもしれない

ヒュー「？ 何の話をしているのだ？」

カン「あ、ヒュー…自分はそんなにも小さいのか？」

ゴウ「ちいっさいよね」

ゴツ ゲンコツの音

ヒュー「そんなことを平然と本人の前で言うナッツ！…！」

…ヒュー、自分をかばってくれるのか？ やっぱり優しいやつだぜ。

ヒュー「ところで何の話をしていたのだ？」

ガクッ！！！！ 4人がこけた

結局ヒューは何にもわかってなかったようだな…

スイ「かくかくしかじかだスイ」

ヒュー「ほう…カン」



カン「へっ！？な、何だぜ！？」

ヒュー「そんなことにしなくてもカンはカンダ。わたしたちの仲間ではないカツ!!」

ヒュー……自分のことをそんなに考えてくれていたんだなんて……

ゴウ「ま、小さいことには変わりないけどね」

ゴウ、カン以外（（！！！？？）（（

カン「…」

ガシヤンッ  
ジャコッ

4人  
？

カン「このボケゴウっ念仏は唱え終わっ たかああ！！（怒）」

ドカンドカンツ ミサイル発射

4人「う、うわあああああ!?!?!?」

数分後

カン「ふんつ」

ゴウ「うっ…」  
ボロボロ

ニヨキ「ま、ゴウも自業自得だYO」

ヒュー「その通りだナ」

カン「…牛乳飲もうかな（汗）」

S H I N ・ M E N ハウスの冷蔵庫にしばらく大量の牛乳が入っていたのは言うまでもない

## カンのプライド（後書き）

カン「べつ別に自分は気にしてなんか…」

3人「してるしてる」

まあまあ、そんなに言わないの！

お次はニヨキ！！

ニヨキ「？」

## ニヨキのグラスン（前書き）

はたまた、大惨事の予感！！  
ゴウ「ださいんじつて何？」  
4人「「「「だ・い・さ・ん・じ！！！！」」」」  
始まりまゝす（汗）

## ニヨキのグラサン

ニヨキ「なあ、俺のグラサン知らないかYO？」

4人「「「「グラサン????」」」」

スイ「え…あれゴグルじゃなかったんだ」

プールかYO!? 見てわかんないものか!?

カン「そういえば…昨日テーブルに置いていたぜ？」

ヒュー「うむ。わたしもそれはみていたのだ」

ゴウ「…え、あれニヨキのだったのお!？」

…ここにてまさかの犯人はゴウだったのかYO!!!

スイ「ゴウちゃんはホントにお馬鹿でスイ」

ニヨキ「はやくかえせ!!!俺のグラサン!!!!」

ゴウ「えゝあれはオラがひろったんだゾ! だからオラのものだゾ  
!!!」

いやいやいや!落としてないS I! てゆうか貰ったら泥棒になる  
YO!!!!!!

ヒュー「ゴウ、拾ったものは落とし主が現れたらきちんと返却する  
ものだ!!!」

ゴウ「???」

カン「だから、ニヨキが返せといってるから返さないといけないん  
だよ!」

ゴウ「えゝでもオラこれ欲しいんだもゝん」

ええゝ…元々は俺のグラサンだったのにいゝ(泣) 返してくれY

〇！！！

スイ「ニヨキちゃん、僕に任せるでスイ」

ニヨキ「え…??」

スイ「ゴウちゃん、それ返してあげて!!」

ゴウ「ええ、これオラのお」

ほーらね、こうなるに決まってるんだYO！  
諦めるしかないのか  
なあ…

スイ「おねいさん紹介するよ？」

ゴウ「まじい！？　じゃあこれは返すゾ」

コケツ　3人がこけた

スイ「はい、ニヨキちゃん」

ニヨキ「Thank you…」

カン「とりあえず一件落着のようだな…」

ヒュー「というか…おねいさんでかたがつくのか」

ニヨキ「なんか今日は疲れたYO」

まだまだゴウの扱い方がよくわかってないニヨキであった。

ニヨキ「わからないに決まってるYO！！！！！！」

## ニヨキのグラスン（後書き）

ゴウ「ニヨキ、グラスンどこで買ったの？」

ニヨキ「それは秘密だYO！」

ではでは次はスイちゃん！！

スイ「え…めんどくさいでスイ」

4人「「「「おい！！？」「」「」」

## スイのお肌チェック（前書き）

今回はスイちゃんです！！

スイ「肌のお手入れしてないね。厳しくいくでスイ！」

ヒイヒイヒイヒイヒイヒイ！！！？？？

ゴウ「始まるゾ」



## スイのお肌チェック

スイ「君らってお肌の手入れとかしてる？」

4人「……へ？」「……」

やっぱり…最近なんか気になると思ったら皆手入れをしていなかったスイ

ヒュー「なぜ手入れをしないといけないのダ？」

ゴウ「そうだゾー！オラはイケメンだから必要ないゾー！」

ニヨキ「俺もしなくてもいいと思うYO」

カン「自分もそんなに肌は気にしないぜ」

スイ「そおれがいけないんでスイ！！ 艶々で潤いのあるお肌は大切なの！！（怒）」

ゴウ「でもオラそんなことやってるお暇がないしい」

暇がない…

ニヨキ「そんなにやり方知らないSIE」

やり方を知らない…

ヒュー「はつきりいって道具自体もってないしい」

道具自体をもっていない…

カン「できないこと尽くしだぜ」

スイ「そんなのは…」

4人「（（（？）））」

スイ「そんなのは僕が何とかするでスイスイスイスイ！！！！！！」

ヒュー「うわあっ！？スイが（違う方向で）キレタ！！！！！！？？？」

スイ「4人ともそろって覚悟するでスイスイスイスイ！！！！！！」

4人「「「うっぎゃあああああっああ」」「」」

「数十分後」

スイ「ふうううみんな艶々のプルプルでスイ」

4人「「「うへえええ」」「」」 ピカピカ

スイ「お肌は僕にお任せだスイ」

## スイのお肌チェック（後書き）

いやあ、スイちゃんにはやられましたな… ピカピカの作者  
カン「ぽつきい…お前まで」

ヒュー「いつもそうしていたら女々しいのにナ」  
なっ／＼／＼ お次はゴウ先輩！！

ゴウ「ほっほい」

4人（（（なんで先輩？）））

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9240z/>

---

SHIN - MEN 短編集

2012年1月5日20時54分発行